

生徒発意 ミニ文化祭

ひたちなか市稲田の県立佐和高（国広正法校長、生徒707人）で、正規の文化祭が3年に1度しかなくて寂しいと、生徒会の発意で「ミニ文化祭」が企画され、19日に開かれた。初めての試みで、歌にダンス、ラップバトルなどステージパフォーマンスや、メイドカフェなど各クラスごとに趣向を凝らしたアトラクションが展開され、校内が活気にあふれた。

佐和高初の試み

同校には、正規の文化祭があったが、入学してまだ「佐和高祭」がある。ただし開催は3年に1度で、生徒は在籍中に1回しか経験ができない。そこで「自分たちの学校を自分たちで盛り上げることがしたい」と生徒会役員が中心となり、学校側に働きかけて、ミニ文化祭が実現した。

生徒会長で3年生の加藤宏太郎さん（17）は「僕たちの代は、1年時に佐和高祭の代は、1年時に佐和高祭を収集。その上で3月に実



佐和高校で生徒たちの「学校を自分たちで盛り上げたい」という発意を受けて実施された「ミニ文化祭」＝ひたちなか市稲田

3年に1度「寂しい」応え

施要望をまとめた。教職員と協議して詰め、5月に正式に開催が決定した。

テーマは「さわげ、青春。はじまりの1ページ」とした。加藤さんは「『佐和高』の『さわ』にかけ、『騒ぐ』ことがやりたかった」という。

体育館での開会式では、全学年18クラスが、ステージから、それぞれの企画をPR。「有志発表」もあり、米津玄師さんの「IRIS OUT（アイリスアウト）」やAKB48「ヘビィローテーション」などの歌や、ダンス、ラップバトルを繰り広げた。芸達者の友人たちが壇上に登場するや、会場は黄色い歓声が湧き、大盛り上がりとなった。

その後、各教室では男子が給仕するメイドカフェや、ボウリング、射的、巨大ジエンガなど、手作り感のある飾り付けや仕掛けを使い、アトラクションを展開。生徒たちは自らの企画でもてなし役を務めつつ、他のクラスに客として足を運び、相互に楽しんだ。

国広校長は「生徒のやりたいという声に発し、行事が作られたのは、本校では初めてのことで、教育では今、生徒の主体性が求められているので、それにかなう形になった」と喜んだ。